

2023年12月 8 日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社
代 表 者 名 代表取締役 武内 博文
(コード番号：4579)
問 合 せ 先 取締役 須藤 正樹
(TEL. 052-446-6100)

事業計画及び成長可能性に関する事項の修正に関するお知らせ

当社は、2023年12月8日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2023年2月14日に公表した事業計画（『事業計画および成長可能性に関する事項（2023年12月期～2025年12月期）中期経営計画2023-2025』）を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 売上・損益目標見直しの概要

【見直し後】

(百万円)

	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2023年度通期（計画）	1,938	2,347	△409	△340	△426
2024年度通期（目標）	3,924	3,721	203	193	90
2025年度通期（目標）	4,185	2,860	1,325	1,330	1,166

【見直し前】（2023年2月14日公表）

(百万円)

	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2023年度通期（計画）	2,799	2,538	260	242	183
2024年度通期（目標）	2,966	2,657	309	317	248
2025年度通期（目標）	4,185	2,860	1,325	1,330	1,166

2. 修正の理由

当社は、最近の業績動向等について検討した結果、2023年2月14日に公表しました『事業計画および成長可能性に関する事項（2023年12月期～2025年12月期）中期経営計画2023-2025』の修正を行うことといたしました。

主な増減要因は、以下の通りです。

2023年12月期の事業収益につきましては、前回発表予想比861百万円（同30.8%）減少する見通しとなりました。これは主に、交渉中のライセンス契約の締結や導出済みパイプラインのマイルストーン達成が2024年にずれ込むこととなったためです。上記の交渉中のライセンス契約は、胃酸分泌抑制剤 tegoprazan（テゴプラザン）の日本国内を対象とした開発・製造・販売にかかる権利のライセンスにつ

※本資料は、投資者に対する情報提供を目的として事業計画等を記載しており、投資勧誘を目的としたものではありません。

当社の事業計画に対する評価及び投資に対する決定は、投資者ご自身の判断において行われるよう、お願いいたします。

いてのものであり、導出済みパイプラインのマイルストーンは、猫の体重減少管理の適応を持つELURA®（一般名：capromorelin（カプロモレリン））の欧州における承認・発売を指します。これら期ずれ要因による当期業績への影響額はマイナス900百万円となります。なお、為替相場変動による業績への影響額は通期でプラス84百万円と見込んでおります。これは当初の為替レートが1米ドル125円に対し、期中平均レートが1米ドル138円程度となることによります。

事業費用につきましては、前回発表比191百万円（同7.5%）減少する見通しとなっております。以上の結果、2023年12月期の業績予想を、事業収益1,938百万円（前回発表予想値2,799百万円）、事業費用2,347百万円（同2,538百万円）、営業利益△409百万円（同260百万円）、経常利益△340百万円（同242百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益△426百万円（同183百万円）に修正いたします。

2024年12月期の事業収益につきましては、前回発表予想比958百万円（同32.3%）増加する見通しとなりました。これは主に、前期の事業収益として見込んでいたライセンス契約締結時の一時金および導出済みパイプラインの開発マイルストーン、合計約900百万円が当期にずれこむことによるものであります。

事業費用につきましては、前回発表比1,064百万円（同40.0%）増加する見通しとなっております。これは主に、新たなライセンス契約の締結の際に提携先に支払う一時金等の費用があわせて約500百万円にのぼることに加え、開発化合物創出に向けた外部委託が当該年度に集中することにより、研究開発費が約370百万円増加することによるものであり、一過性の増加と想定しております。

以上の結果、2024年12月期の業績予想を、事業収益3,924百万円（前回発表予想値2,966百万円）、事業費用3,721百万円（同2,657百万円）、営業利益203百万円（同309百万円）、経常利益193百万円（同317百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益90百万円（同248百万円）に修正いたします。

なお、当社のビジネスモデル・競争力の源泉・投資戦略等につきましては、2023年2月14日に公表した事業計画と同様であり、変更等は生じておりません。

2025年12月期につきましては、前回発表時からの変更はありません。

当社は、今回公表する事業計画の修正に基づき、当社の企業価値の向上を目指した事業活動を進めてまいります。次回の「事業計画および成長可能性に関する事項」の更新および開示は2024年2月を予定しておりますが、事業環境の変化等で事業計画に大きな変更が生じた場合は、変更が確定した時点で速やかにお知らせいたします。

以上

※修正箇所は、次ページ以降をご参照下さい。

※なお、本日19時より、本件に関する説明会をオンライン配信にて開催いたします。詳しくはホームページ（<https://www.raqualia.com/ja/index.html>）をご覧ください。

※本資料は、投資者に対する情報提供を目的として事業計画等を記載しており、投資勧誘を目的としたものではありません。
当社の事業計画に対する評価及び投資に対する決定は、投資者ご自身の判断において行われるよう、お願いいたします。

(修正箇所一覧表)

修正箇所	修正前	修正後
今期の業績予想および今後の業績目標（P6およびP52（P6と同一の内容を再掲））	<p>（※説明テキスト）</p> <p>安定的な事業収益により3期連続の営業黒字を確保</p> <p>（※表内）</p> <p>計画 2023年12月期</p> <p>事業収益 <u>2,799</u></p> <p>事業費用 <u>2,538</u></p> <p>営業利益 <u>260</u></p> <p>経常利益 <u>242</u></p> <p>親会社株主に帰属する当期純利益 <u>183</u></p> <p>EBITDA <u>464</u></p> <p>為替想定（米ドル/日本円） <u>125</u></p> <p>目標 2024年12月期</p> <p>事業収益 <u>2,966</u></p> <p>事業費用 <u>2,657</u></p> <p>営業利益 <u>309</u></p> <p>経常利益 <u>317</u></p> <p>親会社株主に帰属する当期純利益 <u>248</u></p> <p>EBITDA <u>584</u></p> <p>為替想定（米ドル/日本円） <u>125</u></p>	<p>（※説明テキスト）</p> <p>契約一時金・マイルストーン収入時期のずれにより、2023年12月期は赤字</p> <p>（※表内）</p> <p>計画 2023年12月期</p> <p>事業収益 <u>1,938</u></p> <p>事業費用 <u>2,347</u></p> <p>営業利益 <u>△409</u></p> <p>経常利益 <u>△340</u></p> <p>親会社株主に帰属する当期純利益 <u>△426</u></p> <p>EBITDA <u>△233</u></p> <p>為替想定（米ドル/日本円） <u>138</u></p> <p>目標 2024年12月期</p> <p>事業収益 <u>3,924</u></p> <p>事業費用 <u>3,721</u></p> <p>営業利益 <u>203</u></p> <p>経常利益 <u>193</u></p> <p>親会社株主に帰属する当期純利益 <u>90</u></p> <p>EBITDA <u>403</u></p> <p>為替想定（米ドル/日本円） <u>140</u></p>
事業収益計画の概要（P53）	<p>（※図（棒グラフ））</p> <p>2023年</p> <p>事業収益 <u>2,799</u></p> <p>（区分なし） <u>2,799</u></p> <p>2024年</p> <p>事業収益 <u>2,966</u></p> <p>（区分なし） <u>2,966</u></p> <p>（※説明テキスト）</p> <p>2023年</p> <p>テゴプラザンおよび動物薬の売上が順調に推移しロイヤルティ収入は増加。その他、テゴプラザン日本の契約一時金及びマイルストーン収入等で合計2,799百万円を見込む</p> <p>2024年</p> <p>中国におけるテゴプラザンの売上が伸長し、動物薬の売上也堅調に推移すると想定</p>	<p>（※図（棒グラフ））</p> <p>2023年</p> <p>事業収益 <u>1,938</u></p> <p>ロイヤルティ <u>1,641</u></p> <p>その他 <u>297</u></p> <p>2024年</p> <p>事業収益 <u>3,924</u></p> <p>（区分なし） <u>3,924</u></p> <p>（※説明テキスト）</p> <p>2023年</p> <p>テゴプラザンおよび動物薬の売上が順調に推移しロイヤルティ収入は増加。契約一時金とマイルストンの翌期へのずれ込みにより、その他収入が前年比1,134百万円減少。合計1,938百万円を見込む</p> <p>2024年</p> <p>中国におけるテゴプラザンの売上が伸長し、動物薬の売上也堅調に推移すると想定</p>

※本資料は、投資者に対する情報提供を目的として事業計画等を記載しており、投資勧誘を目的としたものではありません。
 当社の事業計画に対する評価及び投資に対する決定は、投資者ご自身の判断において行われるよう、お願いいたします。

修正箇所	修正前	修正後																								
	<u>ロイヤルティ、契約一時金及びマイルストーン収入等で合計2,966百万円を見込む</u>	<u>契約一時金（テゴプラザン日本を含む）及びマイルストーン収入等で合計3,924百万円を見込む</u>																								
研究開発費の概要（P54）	<p>（※図（棒グラフ））</p> <p>2023年</p> <table> <tr> <td>研究開発</td> <td><u>1,674</u></td> </tr> <tr> <td>研究</td> <td><u>1,362</u></td> </tr> <tr> <td>開発</td> <td><u>312</u></td> </tr> </table> <p>2024年</p> <table> <tr> <td>研究開発</td> <td><u>1,718</u></td> </tr> <tr> <td>研究</td> <td><u>1,420</u></td> </tr> <tr> <td>開発</td> <td><u>298</u></td> </tr> </table> <p>（※説明テキスト）</p> <p>2023年 開発化合物の創出と創薬研究体制強化のため前年比<u>33%</u>増の<u>1,362</u>百万円を研究に投資 開発ではグレリン受容体作動薬の前臨床試験および臨床試験準備等で<u>312</u>百万円を投資</p> <p>2024年 <u>前年と同水準の1,420</u>百万円を投じて開発化合物の創出と創薬研究体制強化に取り組む 開発ではグレリン受容体作動薬の臨床試験関連費用等で<u>298</u>百万円を投資</p>	研究開発	<u>1,674</u>	研究	<u>1,362</u>	開発	<u>312</u>	研究開発	<u>1,718</u>	研究	<u>1,420</u>	開発	<u>298</u>	<p>（※図（棒グラフ））</p> <p>2023年</p> <table> <tr> <td>研究開発</td> <td><u>1,448</u></td> </tr> <tr> <td>研究</td> <td><u>1,173</u></td> </tr> <tr> <td>開発</td> <td><u>275</u></td> </tr> </table> <p>2024年</p> <table> <tr> <td>研究開発</td> <td><u>1,976</u></td> </tr> <tr> <td>研究</td> <td><u>1,603</u></td> </tr> <tr> <td>開発</td> <td><u>373</u></td> </tr> </table> <p>（※説明テキスト）</p> <p>2023年 開発化合物の創出と創薬研究体制強化のため前年比<u>14%</u>増の<u>1,173</u>百万円を研究に投資 開発ではグレリン受容体作動薬の前臨床試験および臨床試験準備等で<u>275</u>百万円を投資</p> <p>2024年 <u>前年比36%</u>増の<u>1,603</u>百万円を投じて開発化合物の創出と創薬研究体制強化に取り組む 開発ではグレリン受容体作動薬の臨床試験関連費用等で<u>373</u>百万円を投資</p>	研究開発	<u>1,448</u>	研究	<u>1,173</u>	開発	<u>275</u>	研究開発	<u>1,976</u>	研究	<u>1,603</u>	開発	<u>373</u>
研究開発	<u>1,674</u>																									
研究	<u>1,362</u>																									
開発	<u>312</u>																									
研究開発	<u>1,718</u>																									
研究	<u>1,420</u>																									
開発	<u>298</u>																									
研究開発	<u>1,448</u>																									
研究	<u>1,173</u>																									
開発	<u>275</u>																									
研究開発	<u>1,976</u>																									
研究	<u>1,603</u>																									
開発	<u>373</u>																									

※修正後の『事業計画および成長可能性に関する事項（2023年12月期～2025年12月期）中期経営計画2023-2025』の修正箇所を抜粋したものを次ページ以降にお示しします。今回の修正箇所には下線を付しております。

※ 将来の事象に関わる記述に関する注意

業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

※本資料は、投資者に対する情報提供を目的として事業計画等を記載しており、投資勧誘を目的としたものではありません。
当社の事業計画に対する評価及び投資に対する決定は、投資者ご自身の判断において行われるよう、お願いいたします。



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社

【2023年12月8日修正】

事業計画および成長可能性に関する事項
(2023年12月期～2025年12月期)

中期経営計画2023-2025

2023年2月14日 東証 グロース : 4579

ご注意 : 本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。



業績予想の修正前後の差異のご説明 (1)

事業計画および
成長可能性に
関する事項

単位：百万円

RaQualia
innovators for life

修正後 2023年12月8日	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する 当期純利益	EBITDA
2023年度通期 (計画)	<u>1,938</u>	<u>2,347</u>	<u>△409</u>	<u>△340</u>	<u>△426</u>	<u>△233</u>
2024年度通期 (目標)	<u>3,924</u>	<u>3,721</u>	<u>203</u>	<u>193</u>	<u>90</u>	<u>403</u>
2025年度通期 (目標)	<u>4,185</u>	<u>2,860</u>	<u>1,325</u>	<u>1,330</u>	<u>1,166</u>	<u>1,582</u>
修正前 2023年2月14日	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する 当期純利益	EBITDA
2023年度通期 (目標)	<u>2,799</u>	<u>2,538</u>	<u>260</u>	<u>242</u>	<u>183</u>	<u>464</u>
2024年度通期 (目標)	<u>2,966</u>	<u>2,657</u>	<u>309</u>	<u>317</u>	<u>248</u>	<u>584</u>
2025年度通期 (目標)	<u>4,185</u>	<u>2,860</u>	<u>1,325</u>	<u>1,330</u>	<u>1,166</u>	<u>1,582</u>

2023年

ロイヤルティ収入は前年に比べて増加。一方、交渉中のライセンス契約の締結や導出済みパイプラインのマイルストーン達成が2024年にずれ込むことで、その他収入が約900百万円の減少。為替の影響は通期でプラス84百万円を見込む。結果として、事業収益が前回発表比861百万円（同30.8%）の減少。

2024年

契約一時金と開発マイルストンの前期からの期ずれと為替想定の見直しにより、事業収益が前回発表比958百万円（同32.3%）の増加を見込む。事業費用は、主として支払ロイヤルティと研究開発費の増加により前回発表比1,064百万円（40.0%）の増加となる見通し。

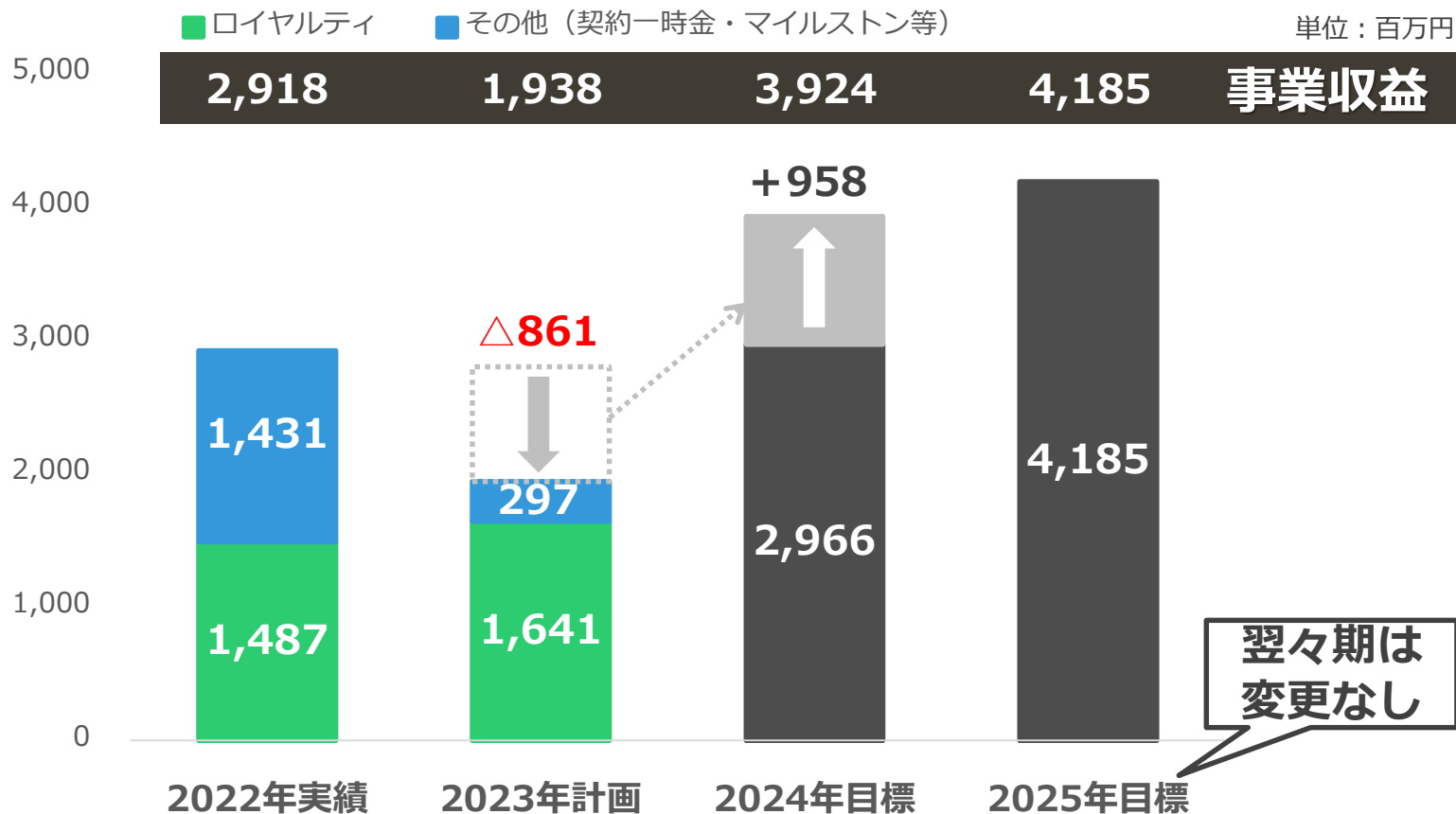
2025年

修正無し



業績予想の修正前後の差異のご説明 (2)

- 2023年12月期計画の事業収益が2024年12月期に期ずれ
 - ✓ テゴプラザンの日本国内のライセンス契約締結に伴う一時金
 - ✓ 動物薬ELURA®のマイルストーン達成に伴う一時金





RaQualia
innovators for life

事業計画

収益計画・投資戦略・資金の状況と配分

※修正後の『事業計画および成長可能性に関する事項（2023年12月期～2025年12月期）中期経営計画2023-2025』の修正箇所（P6（同一内容をP52に再掲）、P53およびP54）を抜粋したものを次ページ以降にお示しします。今回の修正箇所には下線を付しております。



業績予想および今後の業績目標

事業計画および
成長可能性に
関する事項

RaQualia
innovators for life

契約一時金・マイルストーン収入時期のずれにより、**2023年12月期は赤字**

設備投資や開発費の増加により**事業費用は増加**するが、2025年以降の中長期的な成長の基盤として重要な投資と位置づけ

単位：百万円

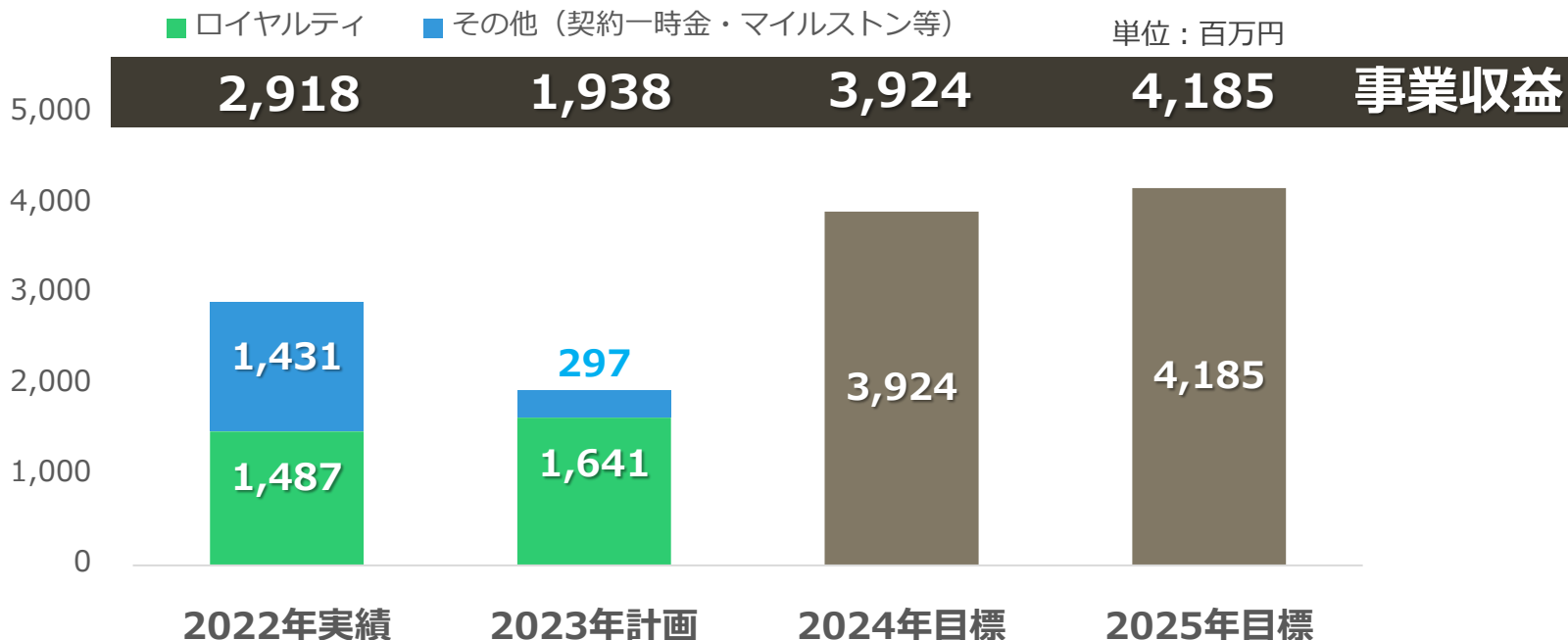
	実績	計画	目標	
	2022年 12月期	2023年 12月期	2024年 12月期	2025年 12月期
事業収益	2,918	<u>1,938</u>	<u>3,924</u>	4,185
事業費用	2,051	<u>2,347</u>	<u>3,721</u>	2,860
営業利益	866	<u>△409</u>	<u>203</u>	1,325
経常利益	904	<u>△340</u>	<u>193</u>	1,330
親会社株主に 帰属する 当期純利益	723	<u>△426</u>	<u>90</u>	1,166
EBITDA	1,013	<u>△233</u>	<u>403</u>	1,582
為替 (米ドル/日本円)	134.25	<u>138</u>	<u>140</u>	125



事業収益計画の概要

事業計画および
成長可能性に
関する事項

RaQualia
innovators for life



2023年

テゴプラザンおよび動物薬の売上が順調に推移しロイヤルティ収入は増加。契約一時金とマイルストンの翌期へのずれ込みにより、その他収入が前年比1,134百万円減少。合計1,938百万円を見込む

2024年

中国におけるテゴプラザンの売上が伸長し、動物薬の売上也堅調に推移すると想定 契約一時金（テゴプラザン日本を含む）及びマイルストーン収入等で合計3,924百万円を見込む

2025年

テゴプラザンのグローバル売上はさらに伸長し、動物薬の売上也堅調に推移すると想定 ロイヤルティ、契約一時金及びマイルストーン収入等で合計4,185百万円を見込む

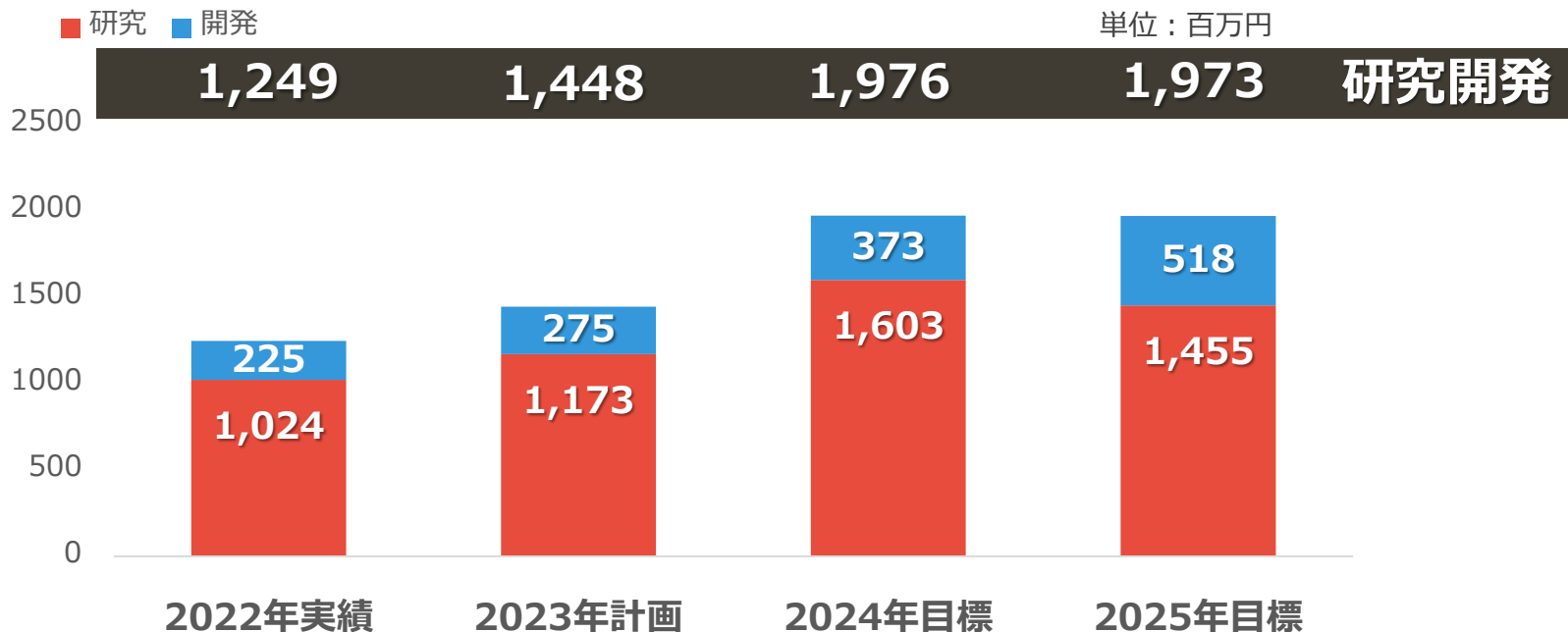
今回の発表では、ロイヤルティ収入とその他収入（契約一時金・マイルストーン）の別を設けずまとめて表示しています。契約一時金の想定額に関する情報の開示が契約交渉に影響する可能性を鑑みての措置でございますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



研究開発費の概要

事業計画および
成長可能性に
関する事項

RaQualia
innovators for life



2023年

開発化合物の創出と創薬研究体制強化のため前年比14%増の1,173百万円を研究に投資
開発ではグレリン受容体作動薬の前臨床試験および臨床試験準備等で275百万円を投資

2024年

前年比36%増の1,603百万円を投じて開発化合物の創出と創薬研究体制強化に取り組む
開発ではグレリン受容体作動薬の臨床試験関連費用等で373百万円を投資

2025年

新規モダリティの基盤技術化・開発化合物の創出に向けて研究費1,455百万円を投資
開発ではグレリン受容体作動薬と新たな開発化合物の自社開発等で518百万円を投資

本事業計画における研究開発費は研究開発部門の人件費を含みます。当社では開発候補化合物の前臨床試験以降を「開発」としています。

私たちは創薬を通じて健康と幸せに貢献し、
人々の心に陽をもたらします



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社